親鸞聖人関東伝道800年慶讃法要

The 800th Anniversary of Shinran Shonin's Dharma Propagation in the Kanto Region

恩徳讃

親鸞聖人御和讃

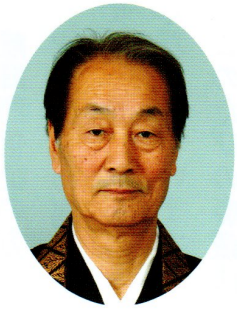
如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
ほねをくだきても謝すべし

目次

ご挨拶……浄土真宗本願寺派総長　園城　義孝　1
ご挨拶……築地本願寺宗務長　北畠　晃融　2
法要日程……3
記念華葩について……3
広文類作法　第二種……4
『顕浄土真実教行証文類』総序……10
御絵伝にみる親鸞聖人の関東教化……12
親鸞聖人略年表……12
分院・布教所……13

「親鸞聖人関東伝道800年」PRポスター。
「遇えて、よかった。」をテーマに、いまを生きるよろこびを伝える。

「親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要」をお迎えして



浄土真宗本願寺派総長　園城義孝

本日は遠近各地より、ようこそ「親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要」にご参拝くださいました。

宗祖親鸞聖人は、一二一四（建保二）年に越後から上野国佐貫（群馬県）を通り常陸（茨城県）に移られました。本年は、関東でご教化を始められて八〇〇年となります。このたび第二十五代専如ご門主様をお迎えし、多くの僧侶、寺族、門信徒の方々をはじめ、有縁の皆さまとともに、築地本願寺において慶讃法要をお勤めするご縁にめぐまれましたこと、誠にありがたく尊いことであります。

親鸞聖人は、戦乱や天災地変が相次ぎ、多くの人びとが世の無常を嘆いた時代にお生まれになり、九十年のご生涯を通して南無阿弥陀仏のお念仏とともに歩む人生のよろこびをお示しくださいました。関東には四十二歳の頃より約二十年間住まわれ、小島や稲田の草庵などを拠点に多くのご門徒をご教化されました。殊に、私たち凡夫が、阿弥陀如来の本願力によって等しく救われていく往生浄土の道をあきらかにされた、浄土真宗の立教開宗の根本聖典『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』のご執筆を始められたのが、この関東の地であります。

親鸞聖人が開かれた浄土真宗のみ教えは、宗祖のみ跡を慕う多くの先人方によって絶えることなく受け継がれ、いつの時代にも人びとの深い苦しみや悲しみに寄り添い、生死に迷う人生の真の依りどころとなってまいりました。今を生きる私たちは、宗祖、先人、親から受け継がれてきたお念仏のみ教えを聞かせていただくご縁を恵まれ、阿弥陀如来の智慧と慈悲の中に生かされる身とならせていただいたことをともに感謝したいと存じます。

このたびの法要を通して、親鸞聖人が関東に浄土真宗のみ教えを開かれた歴史を振り返らせていただくとともに、そのお流れを汲む私たちが、自信教人信の道を歩み、み教えに遇えたよろこびを次の世代へと相続し、お念仏の声満ちる社会をめざしてまいりましょう。

「親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要」に際して

築地本願寺宗務長　北畠晃融

皆さまとともに「親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要」をお迎えすることができました。

このたび築地本願寺におきまして、第二十五代専如ご門主様ご親修のもと、本法要を修行いたしますことは、誠に時機に契った喜ばしいことと拝察いたします。第十二代准如上人が、元和三年（一六一七）に築地本願寺の前身である江戸浅草御堂を創建されて、関東伝道の要とされてから約四〇〇年という時でもあります。

ここ関東は、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』を著されて浄土真宗の大道を開かれ、多くの方々に本願念仏のみ教えを説かれた有縁の地であります。

築地本願寺におきましては、聖人が関東伝道を始められて八〇〇年という記念すべき年に、「遇えてよかった」をテーマに掲げ、混迷と不安の渦巻く現代に生きる私たちが、聖人のみ教えに遇い、いま、ここに生きる慶びを大切に受けとめる機縁としていただきたいと願っています。

日本の総人口の四分の一を超える人々が生活を送る関東には、浄土真宗のみ教えとご縁が薄くなりがちとなった離郷門信徒の方々、また今まで浄土真宗のみ教えとも寺院ともご縁がなかった方々が多くおられます。

親鸞聖人の関東伝道の精神を礎に、今こそ私たち一人ひとりが、この地でお念仏の道を伝えなければなりません。親鸞聖人のみ教えは、現代を歩むための灯として燦然と光り輝き、今を生きる私たちに確かな道をお示しくださっています。

このたびの慶讃法要を通して、共々にお念仏申す人生を歩ませていただき、み教えに遇えた慶びを一人でも多くの方々に伝え、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に邁進してまいりましょう。

本日はようこそお参りいただきました。

親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要
6月29日（日） 築地本願寺本堂

午前の法要		午後の法要	
9時00分	受付	13時00分	受付
9時45分	総長あいさつ	13時45分	総長あいさつ
9時50分	庭儀	13時50分	庭儀
	親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要		**親鸞聖人関東伝道八〇〇年慶讃法要**
引き続き	ご門主様ご親修（広文類作法第二種）	引き続き	ご門主様ご親修（広文類作法第二種）
11時15分	ご門主様ご親教	15時15分	ご門主様ご親教
	記念講演		記念講演
	「親鸞聖人と門徒のコミュニティ」		「親鸞聖人と門徒のコミュニティ」
	赤松徹眞師（龍谷大学学長・本願寺史料研究所長）		赤松徹眞師（龍谷大学学長・本願寺史料研究所長）
11時55分	宗務長あいさつ	15時55分	宗務長あいさつ
	恩徳讃斉唱		恩徳讃斉唱

記念行事

本堂

- ■シンポジウム「ご縁」　6月22日（日）13時00分～15時30分
- ■仏教讃歌コーラス「築地本願寺音御堂」　6月28日（土）14時50分～16時10分
- ■パネル展「親鸞聖人の関東伝道」　開催中

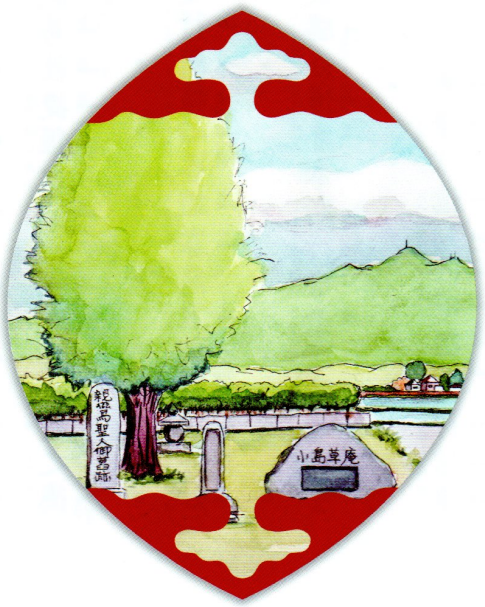
境内テント

- ■安穏朝市　6月29日（日）9時00分～15時00分
- ■仏教なんでも相談　6月29日（日）9時30分～15時00分

記念華葩について

越後流罪から7年の後、親鸞聖人は建保2年（1214）42歳の時、家族を伴い上野国（こうずけのくに）（現在の群馬県）を経て、下妻（しもつま）（現在の茨城県下妻市）にお越しになり、最初に居住したのが小島草庵（おじまそうあん）である。

この小島草庵は、聖人が関東において教化をされたはじめての場所である。現在、草庵跡には親鸞聖人お手植えと伝えられる大銀杏が枝を拡げている。この大銀杏は後に聖人が移り住んだ稲田（いなだ）の方向に枝を伸ばしているため「稲田恋（こい）しの銀杏」と呼ばれている。



廣文類作法　第二種

頂礼文

頭発音

南無帰命頂礼

極楽能化　弥陀如来

總序

同音

竊以難思弘誓度難度海大船無尋光明破無明闇

恵日然則浄邦縁熟調達闇世興逆害浄業機彰

釋迦韋提選安養斯乃權化仁齊救濟苦惱群萌世

雄悲正欲恵逆謗闡提故知圓融至徳嘉號轉惡成

徳正智難信金剛信樂除疑獲證真理也爾者凡小

易修真教愚鈍易往捷徑大聖一代教無如是之徳

海捨穢忻浄迷行惑信心昏識寡惡重鄣多特仰如

來發遣必歸最勝直道專奉斯行唯崇斯信噫弘誓

強縁多生巨値真實浄信億劫巨獲遇獲行信遠

慶宿縁若也此廻覆蔽疑網更復逕歴曠劫誠哉

攝取不捨真言超世希有正法聞思莫遲慮爰愚禿

釋鸞慶哉西蕃月支聖典東夏日域師釋難遇今

得遇難聞已得聞敬信真宗教行證特知如來恩

徳深斯以慶所聞嘆所獲矣

正信偈

歸命無量壽如來
法藏菩薩因位時
觀見諸佛淨土因
建立無上殊勝願
五劫思惟之攝受
普放无量无邊光
清淨歡喜智慧光
超日月光照塵刹

同音
南無不可思議光
在世自在王佛所
國土人天之善惡
超發希有大弘誓
重誓名聲聞十方
无导无對光炎王
不断難思无稱光
一切群生蒙光照

本願名號正定業
成等覺證大涅槃
如來所以興出世
五濁惡時群生海
能發一念喜愛心
凡聖逆謗齊廻入
攝取心光常照護
貪愛瞋憎之雲霧

至心信樂願爲因
必至滅度願成就
唯說彌陀本願海
應信如來如實言
不斷煩惱得涅槃
如衆水入海一味
已能雖破無明闇
常覆真實信心天

譬如日光覆雲霧　雲霧之下明无闇
獲信見敬大慶喜　即横超截五惡趣
一切善惡凡夫人　聞信如來弘誓願
佛言廣大勝解者　是人名分陀利華
彌陀佛本願念佛　邪見憍慢惡衆生
信樂受持甚以難　難中之難无過斯
印度西天之論家　中夏日域之高僧
顯大聖興世正意　明如來本誓應機

釋迦如來楞伽山　爲衆告命南天竺
龍樹大士出於世　悉能摧破有无見
宣說大乘无上法　證歡喜地生安樂
顯示難行陸路苦　信樂易行水道樂
憶念彌陀佛本願　自然即時入必定
唯能常稱如來號　應報大悲弘誓恩
天親菩薩造論說　歸命无尋光如來
依修多羅顯眞實　光闡横超大誓願

廣由本願力廻向　爲度群生彰一心
歸入功德大寶海　必獲入大會衆數
得至蓮華藏世界　即證真如法性身
遊煩惱林現神通　入生死薗示應化
本師曇鸞梁天子　常向鸞處菩薩礼
三藏流支授浄教　焚焼仙經歸樂邦
天親菩薩論註解　報土因果顯誓願
往還廻向由他力　正定之因唯信心

惑染凡夫信心發　證知生死即涅槃
必至無量光明土　諸有衆生皆普化
道綽決聖道難證　唯明浄土可通入
萬善自力貶勤修　圓満德號勸專稱
三不三信誨慇懃　像末法滅同悲引
一生造惡値弘誓　至安養界證妙果
善導獨明佛正意　矜哀定散與逆惡
光明名號顯因縁　開入本願大智海

行者正受金剛心　慶喜一念相應後
ぎょうじゃしょうじゅこんごうしん　きょうきいちねんそうおうご

與韋提等獲三忍　即證法性之常樂
よいだいとうぎゃくさんにん　そくしょうほっしょうしじょうらく

源信廣開一代教　偏歸安養勸一切
げんしんこうかいいちだいきょう　へんきあんにょうかんぎさい

專雜執心判淺深　報化二土正辨立
せんぞうしゅうしんはんせんじん　ほうけにどしょうべんりゅう

極重惡人唯稱佛　我亦在彼攝取中
ごくじゅうあくにんゆいしょうぶつ　がやくざいひせしゅちゅう

煩惱鄣眼雖不見　大悲無倦常照我
ぼんのうしょうげんすいふけん　だいひむけんじょうしょうが

本師源空明佛教　憐愍善惡凡夫人
ほんしげんくみょうぶきょう　れんみんぜんまくぼんぶにん

真宗教證興片州　選擇本願弘惡世
しんしゅきょうしょうこうへんしゅう　せんじゃくほんがんぐあくせ

還來生死輪轉家　決以疑情爲所止
げんらいしょうじりんでんげ　けっちぎじょういしょし

速入寂靜無爲樂　必以信心爲能入
そくにゅうじゃくじょうむいらく　ひっちしんじんいのうにゅう

弘經大士宗師等　拯濟无邊極濁惡
ぐきょうだいじしゅしとう　じょうさいむへんごくじょくあく

道俗時衆共同心　唯可信斯高僧說
どうぞくじしゅぐどうしん　ゆいかしんしこうそうせつ

念佛

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

同音あ 阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)｜阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)｜阿(あ)彌(み)陀(だ)「佛(ぶ)」

阿(あ)彌(み)陀(だ)佛(ぶ)

回向

願(がん)以(に)此(し)功(く)德(どく)

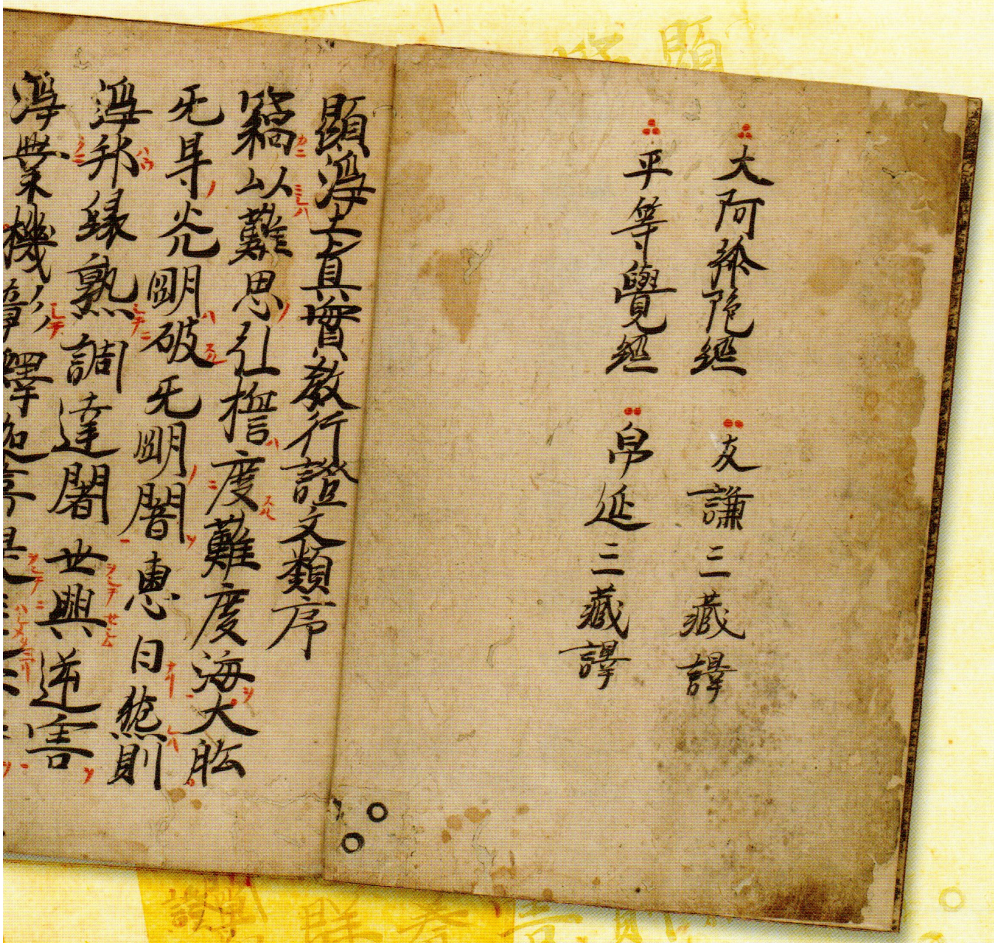
同音 平(びょう)等(どう)施(せ)一(いち)切(さい)

同(どう)發(ほつ)菩(ぼ)提(だい)心(しん)

往(おう)生(じょう)安(あん)樂(らく)國(こく)

『顕浄土真実教行証文類』総序

『顕浄土真実教行証文類』は、親鸞聖人の主著で、浄土真宗の教義体系が示された根本聖典です。『教行信証』『本典』などとも称されます。その冒頭の「総序」では、親鸞聖人が阿弥陀如来の本願の教えに遇えたよろこびを綴っておられます。



ああ、力強く広大なる本願のはたらきには、いくたび生を重ねても遇えるものではありません。また、浄らかなまことの信心は、どれだけ長い時間を経ても得ることはできません。思いがけず本願を信じる心がいただけたならば、遠い過去世からの阿弥陀さまのお育てのお陰であると慶んでください。もしまた、疑いの心に塞がれたならば、ふたたび永遠に迷い続けなければならないでしょう。阿弥陀さまの本願は、何とまことの仰せであることでしょう。私たちを大いなる慈悲のこころで抱きとって、決してお捨てにならないという真実の言葉であり、世の常をはるかに超えた、たぐいまれな教えです。ですから、本願の教えをよくよく聞き受けて、決して疑ってはなりません。

ここに、愚かな凡夫でありますわたくし親鸞は、慶ばしいことに、インド・西域の聖典と、中国・日本の祖師方の解釈に、遇いがたくして今遇わせていただくことができ、聞きがたい教えなのにすでに聞かせていただくことができました。阿弥陀さまのはたらきを敬い信じて、ことに阿弥陀さまのご恩の深いことを知らせていただきました。

（抄）

斯乃權化仁廣救濟苦惱群
萌世雄悲正欲惠逆謗闡提

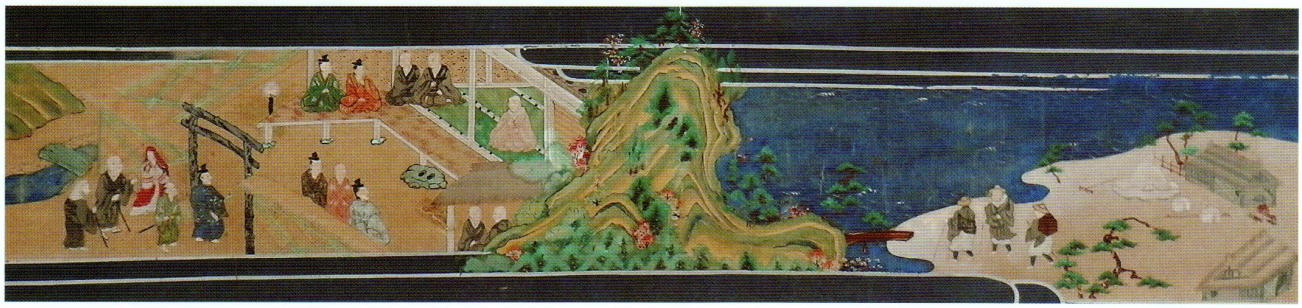
爰曰域師釋難遇今得遇難
聞已得聞敬信眞宗教行證
特知如來恩德深斯慶所聞
嘆所獲矣

故知圓融至德嘉號轉惡成
德正智難信金剛信樂除疑
獲德眞理也尒者凡小易修
眞教愚鈍易往捷徑大聖一
代教無如是之德海捨微忻淨
迷行感信心昏識寡惡重難
多特仰如來教遣必歸最勝直
道專奉斯行唯宗斯信噫弘
誓強緣多生叵值眞實淨信億
劫叵獲遇獲行信之慶宿緣若
也此回復蒙慈翅更復迷塵曠
劫誠哉擁取不捨眞言超世希有
正法聞思莫遲憶要愚禿釋
親鸞慶哉西蕃月支聖典東

御絵伝にみる親鸞聖人の関東教化

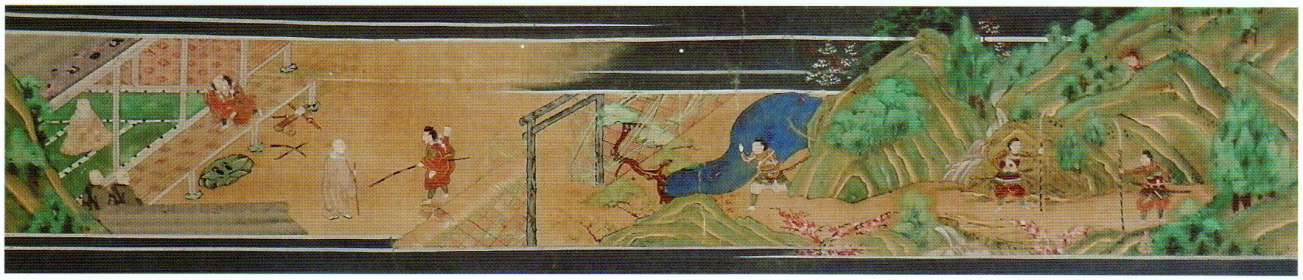
【稲田興法】

親鸞聖人は、越後（新潟県）から関東の常陸（茨城県）に移り、笠間郡稲田郷（笠間市）にお住まいになられました。ひっそりと暮らすつもりで庵の戸を閉じておられましたが、人びとが次々とやってきて、草庵はあふれるほどになりました。お念仏の教えを弘め、民衆を救済したいという聖人のかねてからの念願は、こうして成就されたのです。若いころ、京都の六角堂で救世菩薩から受けた夢告が現実となり、関東にお念仏の声は満ち満ちたのでした。



【弁円済度】

親鸞聖人は、常陸（茨城県）でお念仏の教えを弘めておられました。ところが、本願念仏の教えが弘まるのを心よく思わない山伏の弁円が、聖人に敵意を抱いて危害を加えようとねらうようになりました。板敷山という深山を通って行き帰りする聖人を何度も何度も待ち伏せしますが、どうしてもうまくいきません。そこでただ人ではないように思われたので、弁円はついに草庵に乗り込みました。すると聖人は何のためらいもなく迎え入れました。弁円は、その親鸞聖人の温顔に接して、危害を加える心はたちまちに消え、それどころか、後悔の涙が止まりませんでした。そして聖人に積もり積もった思いを話し、ついに弓矢を捨てて、お念仏に帰依したのです。弁円は、聖人から明法房の名を授けられ、最後には往生浄土の素懐をとげられたのです。

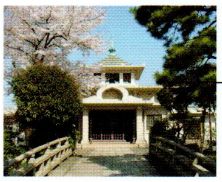


『御絵伝』（築地本願寺蔵）

親鸞聖人略年表

西暦（年号）　年齢	事　　項
1173（承安３）	５月21日、親鸞聖人ご誕生（旧暦４月１日）
1181（養和１）９歳	慈円（慈鎮）和尚の坊舎で出家得度、範宴と号す
1201（建仁１）29歳	六角堂に参籠し、夢告によって源空（法然）聖人の門に入る
1205（元久２）33歳	源空聖人から『選択集』の書写と真影の図画を許される
1207（承元１）35歳	専修念仏停止により越後国府に流罪
1214（建保２）42歳	上野佐貫で三部経千部読誦を発願、中止して常陸に赴く
1224（元仁１）52歳	『教行信証』をご執筆
1232（貞永１）60歳	この頃、京都に帰洛か
1248（宝治２）76歳	『浄土和讃』『高僧和讃』を著す
1258（正嘉２）86歳	『正像末和讃』を著す
1263（弘長２）90歳	１月16日、善法坊にてご往生（旧暦11月28日）

築地本願寺の分院



和田堀廟所

東京都杉並区永福1-8-1
TEL:03-3323-0321

慈光院

東京都墨田区横網1-7-2
TEL:03-3622-3011

東久留米会館

東京都東久留米市柳窪5-8-30
TEL:042-474-6787

あきる野本願寺

東京都あきる野市菅生657-1
TEL:042-532-3153

築地本願寺の布教所

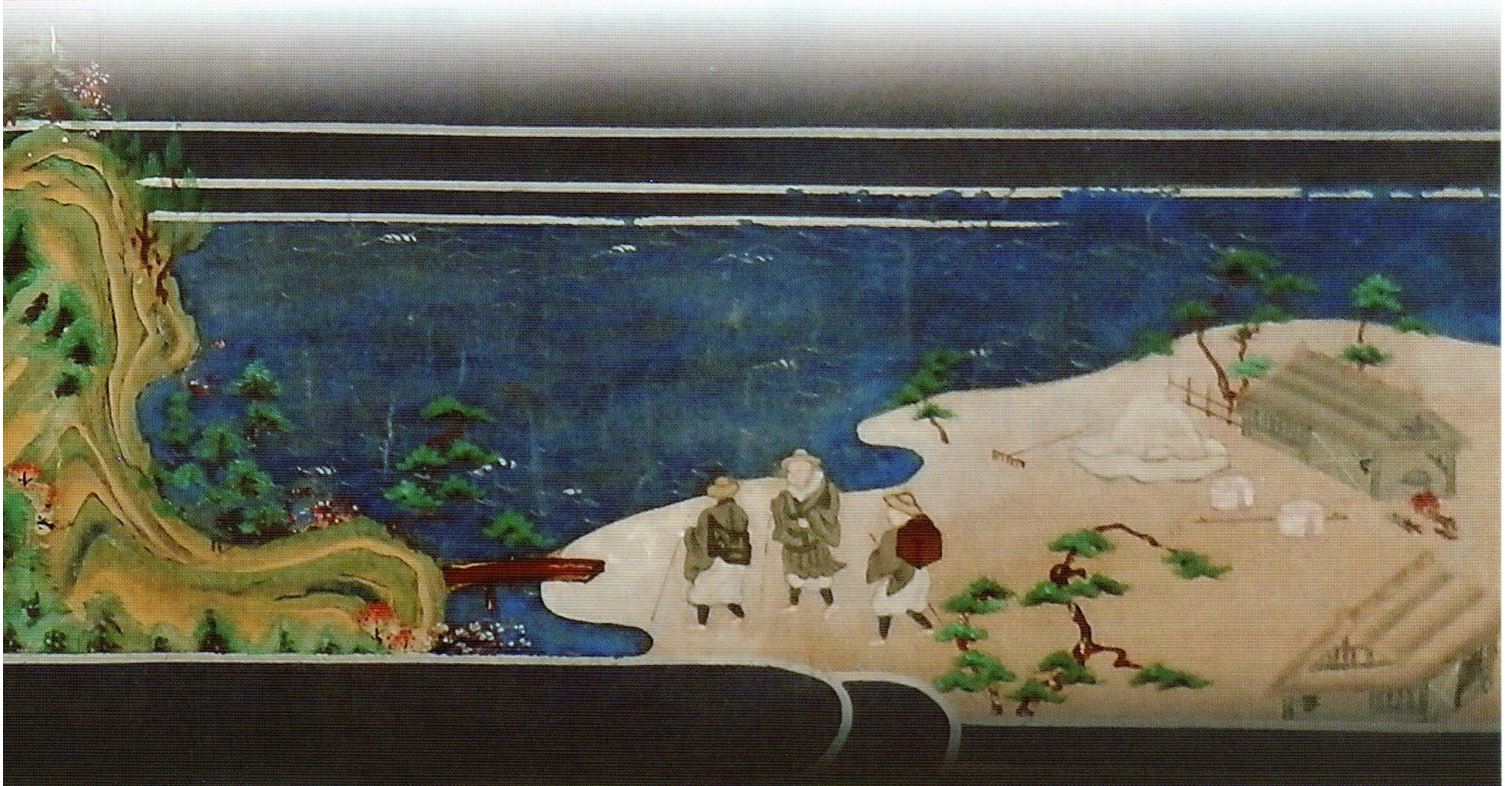
	布教所名	住所／電話
東京都	町田布教所高源寺	東京都町田市野津田町2534-20 TEL:042-737-3236
	春江布教所妙蓮寺	東京都江戸川区春江町3-49-14 TEL:03-3679-4300
神奈川県	大和布教所海門寺	神奈川県大和市柳橋1-20-7 TEL:0462-63-8604
	横浜布教所住蓮寺	神奈川県横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19 TEL:045-341-7455
	逗子布教所龍渓寺	神奈川県逗子市山の根1-7-24 TEL:0468-71-1863
	磯子布教所真行寺	神奈川県横浜市中区根岸加曽台25-47 TEL:045-623-4480
	鎌倉布教所西敬寺	神奈川県鎌倉市手広5-5-13 TEL:0467-32-9238
	相模原橋本布教所長徳寺	神奈川県相模原市中央区清新4-2-30 TEL:042-772-6088
千葉県	習志野布教所照光寺	千葉県習志野市東習志野3-12-12 TEL:047-478-2664
茨城県	つくば布教所光善寺	茨城県つくば市台町3-14-2 TEL:029-836-7686
埼玉県	新座布教所浄心寺	埼玉県朝霞市根岸台6-8-65 TEL:048-464-5570
	吉見布教所浄泉寺	埼玉県比企郡吉見町久保田40-1 TEL:0493-54-8803

How wonderful this encountering is!

2014(平成26)年6月29日

浄土真宗本願寺派
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 本願寺門前町
TEL 075-371-5181(代)　FAX 075-351-1211
http://www.hongwanji.or.jp

築地本願寺
〒104-8435 東京都中央区築地 3-15-1
TEL 03-3541-1131(代)　FAX 03-3541-7071
http://tsukijihongwanji.jp

親鸞聖人
関東伝道八〇〇年

浄土真宗本願寺派
築地本願寺